

2009 年度

4 年生の一年間

# Portfolio II

Works

SHIRAHAMA SHINPEI@YAMAZAKI Lab.

神戸大学工学部建築学科山崎研究室（生活環境計画研究室）

### DATE

### PROJECTS

### WORKS

### LITERATURE

4月

授業「まちづくり論」  
・後藤祐介先生  
・森崎輝行先生

第一演習課題  
『兵庫津まちづくり』  
teacher: 山崎寿一  
site: 西出・東出

共同まちづくりテーマ  
『あちちで こっちで』  
――第一演習課題  
『浮き津橋』

5月

ゼミ合宿  
(沖島・円山・甲良町)

第二演習課題  
『農の風景』  
teacher: 武田史朗  
site: 泉北ニュータウン

第二演習課題  
『旋水旋景 - 水が耕す多様な風景 -』

report

6月

特別講演会  
・安藤忠雄先生

輪島市道下調査

report, PowerPoint, 資料整理

report

7月

→ 途中離脱

→ 途中離脱

report

8月

・京都まちづくりコンペ 参加

→ 途中離脱

report

9月

ゼミ旅行  
(篠山・伊根浦・加悦)

小論文  
『景観について』  
teacher: 山崎寿一

小論文  
『領域感覚がもたらす景観とその実態』  
- 神楽岡町山手地区を事例として -』

10月

→ 佳作入賞

→ 佳作入賞

essence

11月

→ 佳作入賞

→ 佳作入賞

essence

12月

授業「神戸建築学」  
・内田秀彦先生  
- 歴史とコトバからのまちづくり  
・武田史朗先生  
- 環境と場所 -

卒業制作課題  
『京都の景観』  
teacher: 山崎寿一  
浅井保

卒業制作課題  
『句 感』  
- 京都市賀茂・妻之森の廻遊式林間学校 -』

1月

・原広司先生  
- 環境と幾何学 -

卒業制作課題  
『群島の風景 × 港町の営み = 多文化景観』

report

2月

近畿支部論文  
『道下調査報告(1)』  
member: 山崎寿一  
Kim Duhan  
竹田和樹

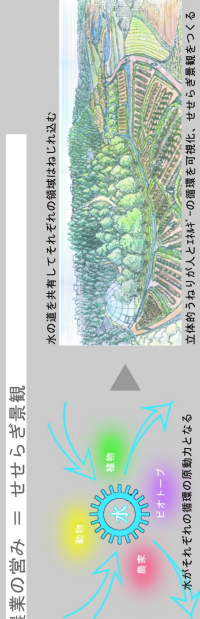
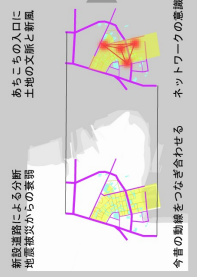
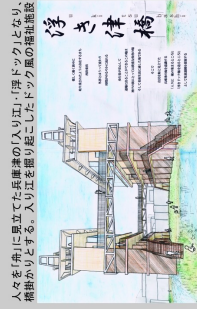
近畿支部論文  
『祭りにも多くの関係者  
頻繁に発生する社交』  
- 能登半島地震被災集落・道下における  
2009年夏祭り調査報告(1) -』

3月

→ 佳作入賞

report

### CONTENTS

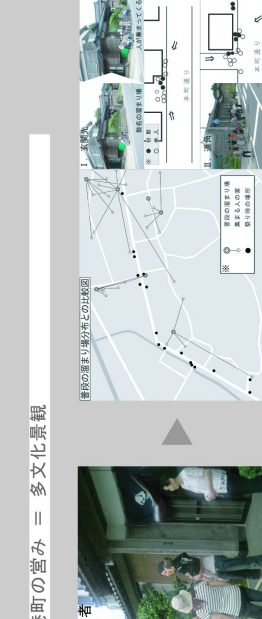
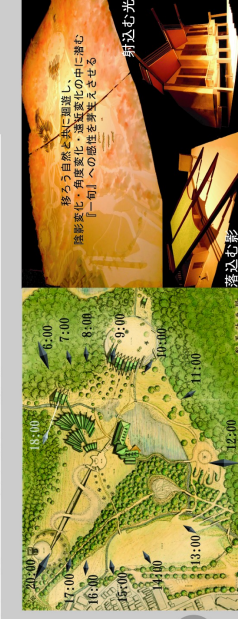


◆ 水郷の風景 × 農業の営み = せせらぎ景観

◆ 入り江の風景 × 漁業の営み = 舟屋景観



◆ 三山の風景 × 教香の営み = 領域調和の景観



- ・よみがえる兵庫津/神戸市立博物館
- ・兵庫の都市づくり100年の歩み /兵庫県まちづくり部
- ・SD7が大阪都市の死と生 / J. ジョブス

- ・コバノ外資系集積 集案 (PQ13) [場所性と自然観] / 山崎寿一
- ・風景創出の現在 / SD9806特集
- ・はじめてのランドスケープデザイン / 八木健一
- ・ランドスケープ 大系 1~5巻 造園学会
- ・ハニカチナ / 佐藤 弘

- ・京・まちづくり史 / 高橋康夫 中川理
- ・京都府山辺山脈における近代以降の集積変容に関する研究 / 出村嘉史
- ・ランドスケープ 批評宣言 / LandscapeNetwork #901
- ・庭の意味論 / M. フラジカ, R. T. ヌサノ
- ・隠れた次元 / E. T. ホル
- ・人間の空間 / R. ノア
- ・景観の経験 / フラット
- 借景や風水に関する文献、多数

- ・これが建築なのだ / 大竹康市
- ・新世代のランドスケープデザイン No. 1-2
- ・LANDSCAPE DESIGN / 佐々木葉二
- ・反アジェンダ / 隈研吾
- ・砂 / 枯山水 / 重森三捨
- 林間学校 廻遊庭園実例集、多数
- PROCESS、各号多数
- 新建築、各号多数
- その他作品集、多数

- ・能登半島地震被災集落・道下の地域性と震災復興 / 山崎寿一
- ・農村における高齢者の居住継続と生活支援の取り組み
- 能登半島地震被災集落・道下を事例として / 中山和樹







# 浮き津橋

u  
k  
i  
t  
s  
u  
b  
a  
s  
h  
i

慌しく動く街中に  
取り残されたように存在するまち  
西出東出

外界とはうって変わり  
時間がゆるやかに流れる

歩行者が安心して  
道端に出ることができるこの地は  
神戸の街にとっては貴重な保育の場  
そして老後生活に適した地である

そこで  
住民を船と見立てた  
兵庫津の海を意識する  
「入り江（船が集まる場所）」  
「浮きドック（船を造る場所）」  
として児童遊園を提案する



姿を消す前の入江を池として復元し、  
停泊する船のようにピオトープを点在させることで、  
自然との触れ合いを促します。

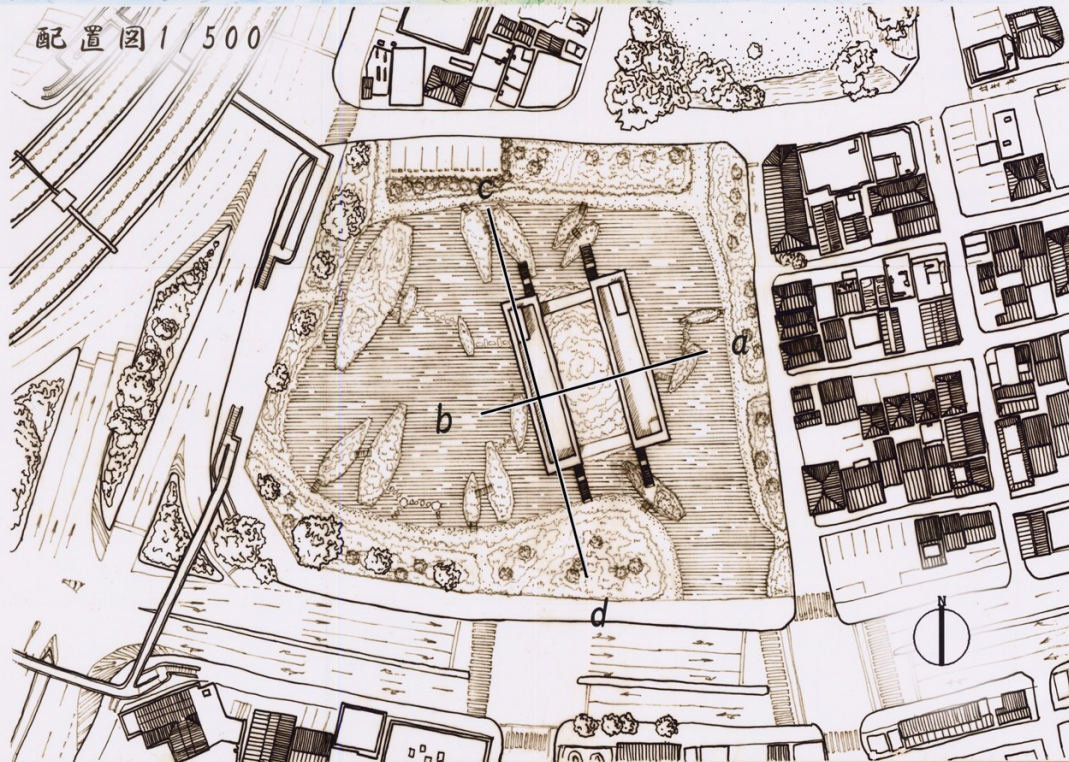
中央には現存の浮きドックをモチーフとした本館があり、  
屋上に近づくごとに海風・展望を身近に感じます。  
兵庫津における時代を越えた2つの海の意識が一体となり、  
やがて西出東出の新たな原風景として根付きます。



館内には児童図書と喫茶、福祉事務室があり、  
児童のための図書の貸し出しや  
中央広場におけるふれあいイベントが  
定期的に行われます。  
2階は池を横断する橋として開放し、  
壁面間にあるブースは自由に利用され、  
行き交う住民たちの交流の架け橋となります。

題名は天の川の船着場を意味する  
「浮き津」という言葉を採用しました。

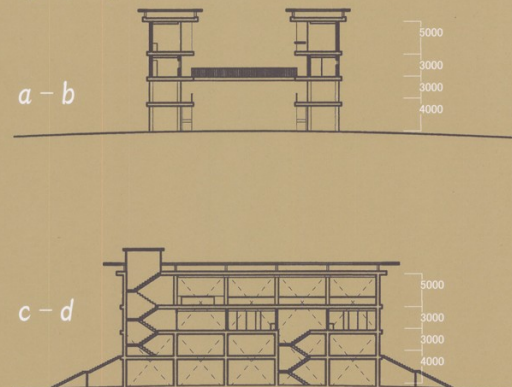
配置図 1/500



各階平面図 1/300



断面図 1/300







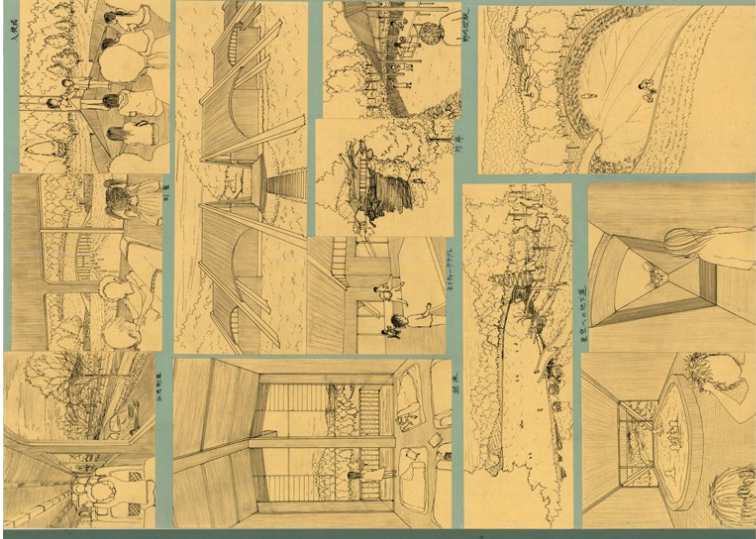










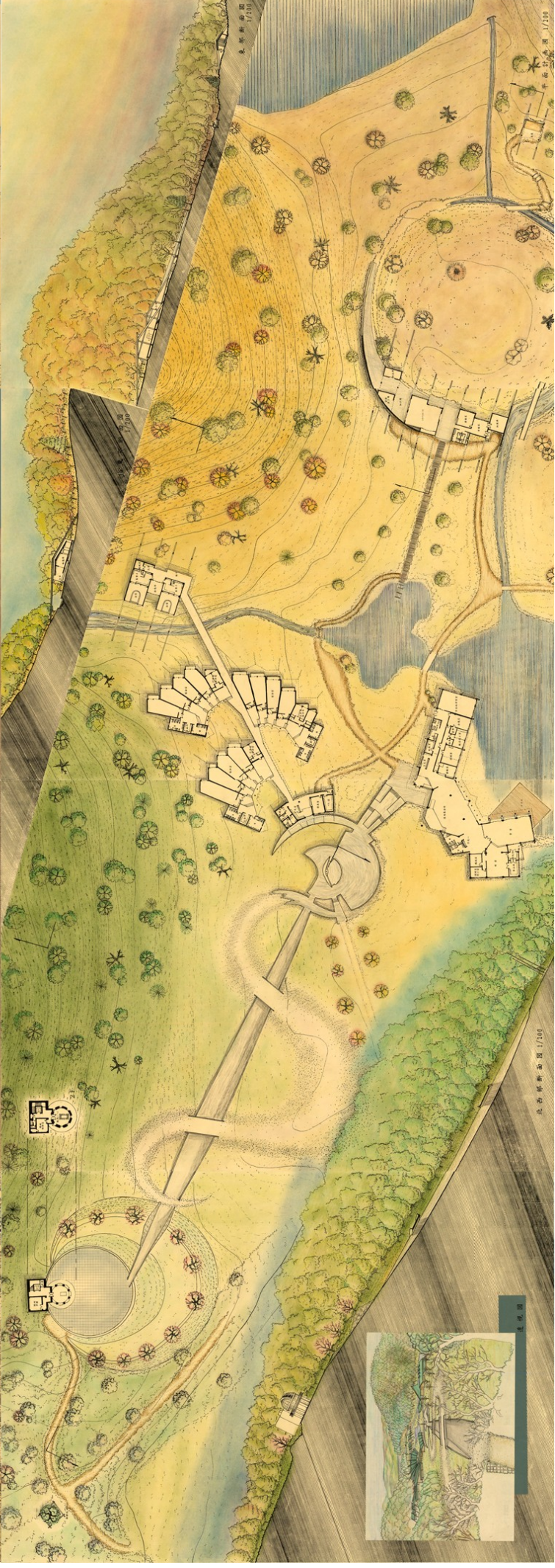
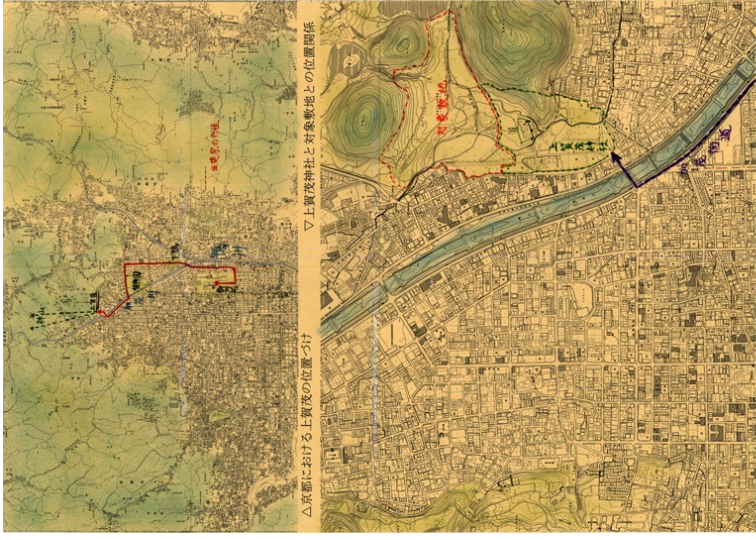


句感

一、旧型の中の現代化

二、新旧の対比と調和

三、伝統の精神と現代的表現





移ろう自然と共に廻遊し、  
陰影変化・角度変化・遠近変化の中に潜む  
『一句』への感性を芽生えさせる

射し込む  
光

落ち込む影







## 制作意図

京都市の風水環境は人々の交流を呼び、世界に誇る文化構造を作ってきました。その風水の鬼門を守っているのが賀茂大社であり、毎年「葵祭り」と称して、多くの人々が自然環境の平穏を祈りに参拝しています。

しかし、その葵祭りを彩る双葉葵をはじめ、この賀茂川水域の自然環境は衰えつつあります。人々は人工的な環境に心が浸され、その二度と帰らない環境の変化に気付けずに一瞬一瞬を過しているのではないのでしょうか。私はこの地の自然、人々の内なる感性を呼び覚ます環境を提案したいと考えました。

敷地は上賀茂神社境内裏に広がるゴルフ場です。この芝生の景色を教育プログラムを通じて双葉葵へ遷移させる林間学校とし、葵祭りの日には、上賀茂神社と一体となって環境NPOや企業が企画を持ち込む環境祭の会場とします。

1400年の間環境を祈る場所であった上賀茂は今、その場その時の『旬』を紡ぎ次ぐ場所として、新たな歴史を刻んでいきます。







## 作品解説 (素材・など)

### 陰影の変化

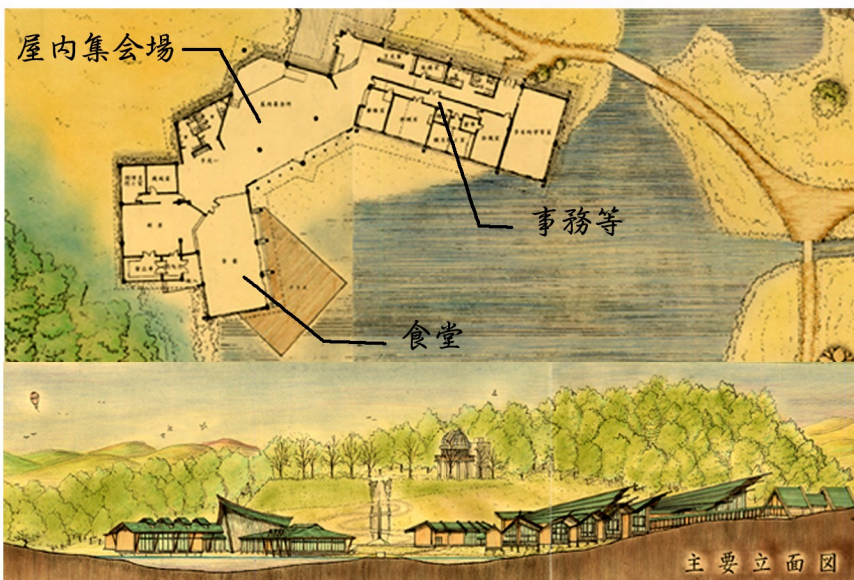
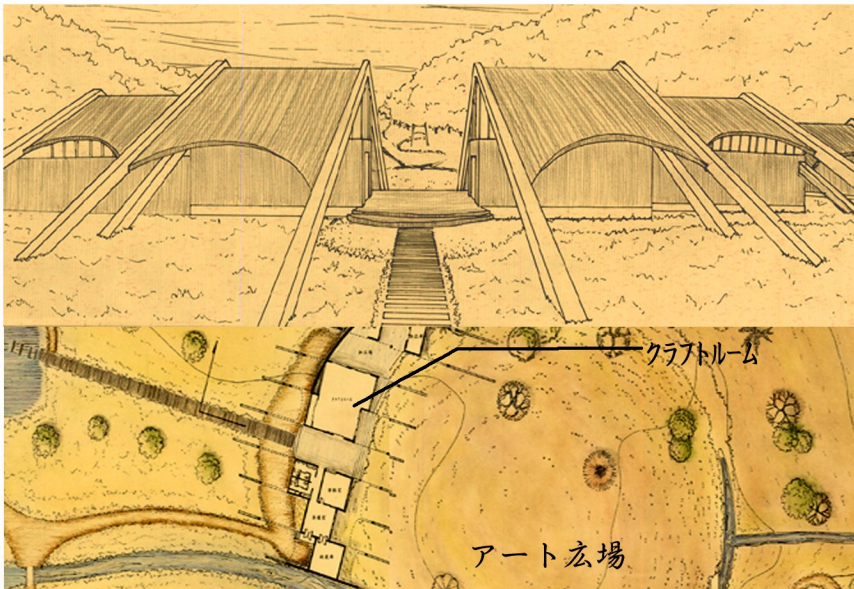
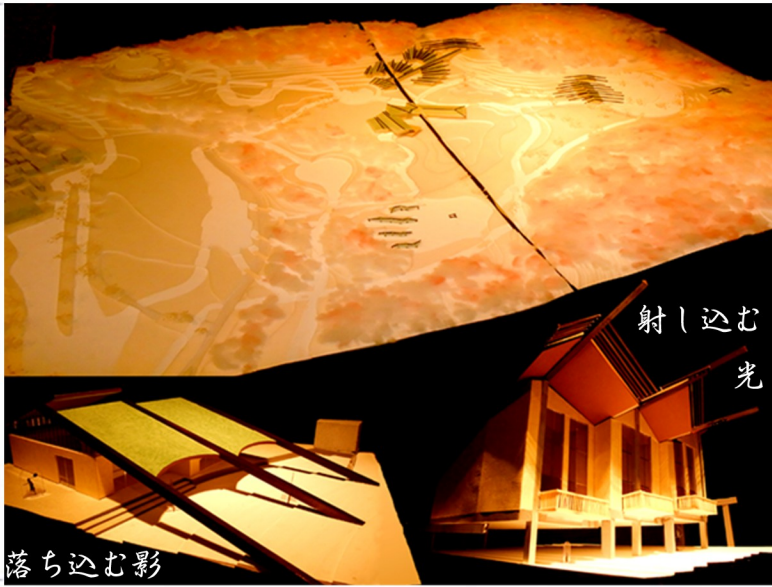
自然の動きは連続的である。  
ランドスケープはその全てに忘れない。  
風景が時折見せる「輝き」や「はかなさ」  
の一瞬を切り取り、抽象化する。  
太陽のスポットライトを浴びて、それぞれの  
陰影は刻々と変化する。

### 遠近の変化

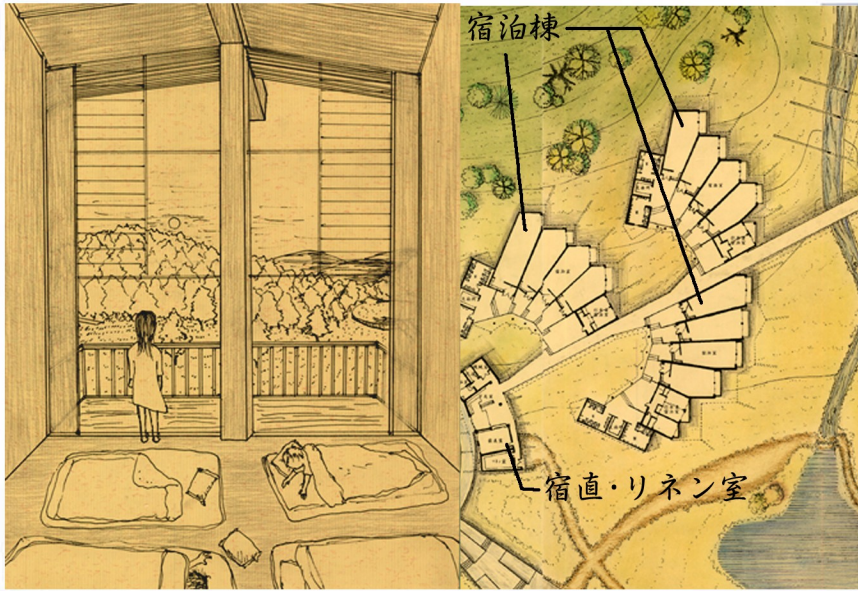
歩み寄る度にその姿を変える建築は、  
視覚的空間体験と肉体的運動が分離し  
た現代人を、空間的距離感の世界へ引  
き戻す。  
環境認知における「歩行」の復権。

### 角度の変化

放射状に配置する建築群は、移ろい巡  
る子供達や自然の変化に対して、固定  
した立ち居地を保つ。  
子供達は、相対的にその環境が持つ多  
角的な表情の存在を認知する。







## 作品解説 (素材・など)

### 朝日で目覚める

その日、その時間にしか体験できないこと＝『旬』である。

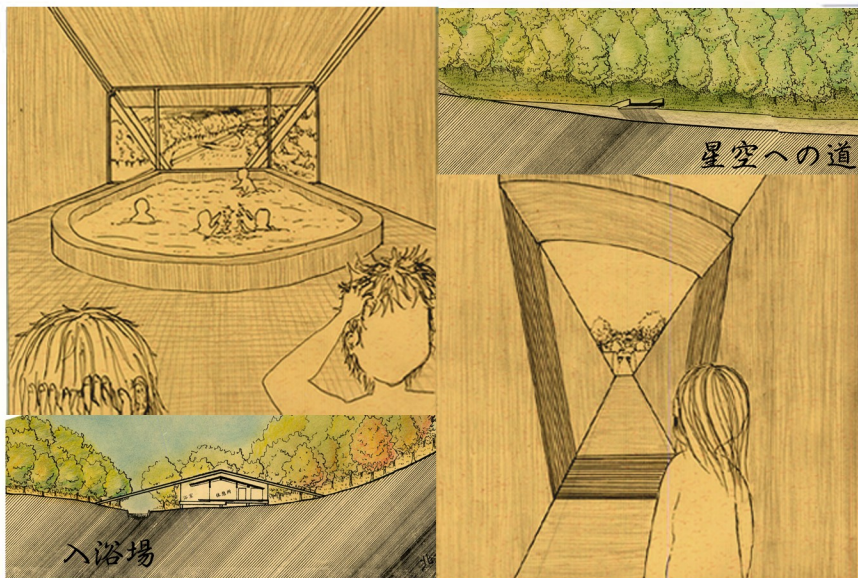
それぞれの『旬』を体感して記憶することで、その時間は子供達の中で永遠のものとなる。

宿泊棟には、朝になると急激に朝日が射し込み、ルーバーの影が臉を叩く。



### 青空の下、遊ぶ

クラフト作業では自然の素材に触れ、野外炊飯では自然の食材に触れる。木肌や土草、そばを流れる水全てには、自分と同じように温もりや潤いがあることに気付く。



### 夕日を浴びて汗を流す

沈む間際、太陽は子供達にその日の終わりを告げるかのように強く輝く。

### 星空に思いを馳せる

夕食を済ませ外に出ると、すっかり星空になっている。静かに天を仰ぐ。

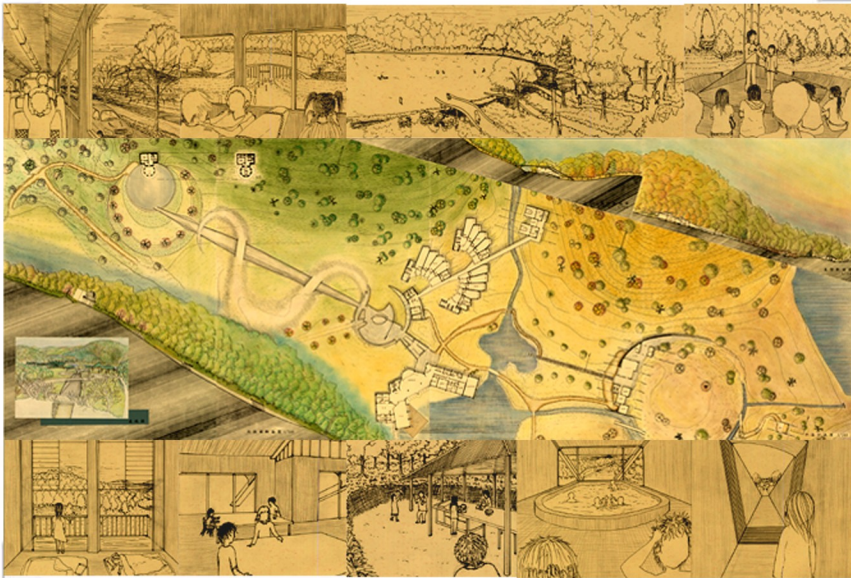




## 作品解説 (素材・など)

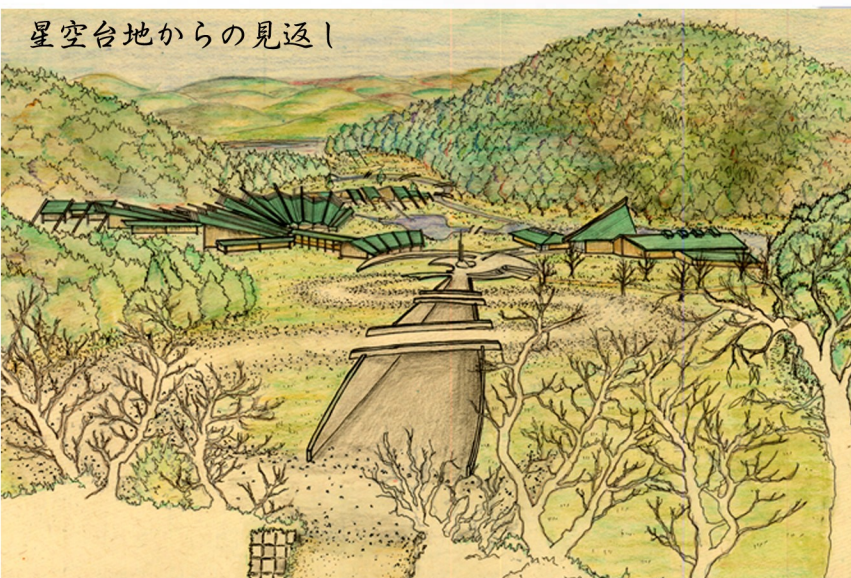
### 環境教育の蓄積

構内には上賀茂神社からご親睦へ繋がる緑道が存在する。  
その中央には花壇に包まれた丘があり、葵が敷き詰められている。  
子供たちは、ここで葵の株分けを行う。



### 環境活動の蓄積

春 葵祭りの一部となる。  
NPOや企業が集う環境祭を行う。  
夏 夏季合宿として子供達が滞在。  
葵を株分けし、持ち帰る。  
秋 育てられた葵は子供達の手により、再びこの地に植わる。  
冬 一般開放。各々の活動に利用する。



### 環境再生の派生

訪れた子供達の数だけ葵は増え続け、やがてゴルフ場の芝生は葵の風景へと遷移される。  
銅葺きの屋根は、その赤銅色の姿からゆっくりと色褪せ、その時間の経過と共に緑青色へと表情を変える。